

見セルニ因ル

K.K.

## 工學會誌第三百十五卷

(明治二十四年二月)

○未來ノ鐵道枕木ノ供給 さんた、ふえ鐵道ハ八千えーくるノ牧地ヲ購入シ先づ以テ内六百えーくるヘ *Eucalyptus* 樹ヲ植付ケ漸次之ヲ擴張シ以テ未來枕木ノ供給ヲ爲サントスル計畫ナル由豫定ニ依レバ十八年後ニハ一樹ヨリ六本乃至八本ノ枕木ヲ収ムル筈、現ニ年三百万本ノ枕木ヲ要スルモ十八年ノ後ハ年々七百万本ヲ供給スルコトヲ得ベシト云フさんた、ふえ鐵道ヲ併セテ十一鐵道會社ノ何レモ地質ニ最モ適スル樹木ノ繁殖ヲ計ルニ孜々タリ

布哇ニテ本樹ハ十五年間ハ耐ユルト云フ、さんた、ふえ及さうざるんばしふひつく兩會社ハ櫻ノ枕木ヲ日本ヨリ輸入シツ、アリト云フ 以上 *Scientific American*, Aug. 1, 1908 K.K.

○合衆國ニ用ヒシ枕木ノ數 合衆國ニテハ蒸氣及市街鐵道ノ新設修繕ニ用キシ一年間ノ枕木本數ハ一億ナリト其四分三ハ斬伐四分一ハ鋸挽材ナリ内櫟ハ四割四分南部產松ハ  $\frac{1}{6}$  %ナリ

K.K.

○まんはつたん橋 ハ四線ノ鐵道線路ト車馬道路トノ外ニ二線ノ步行道ヲ設クル筈吊橋自身ノ長ハ中央千四百四十呎すばん一箇ト各七百二十五呎すばん一個宛ヲ前後ニ設ク橋面ノ全幅ハ百二十呎トス彼ぶるーくりん橋ノ幅ハ八十五呎ナリ、錆四本ノ全張力ハ三万噸ニシテ之ニ應スル錨臺ハ頗ル重大ナル者ナリ、橋上ニ最大荷重ヲ負フトキ鑠受塔ガ各受クル全荷重ハ三万二千噸トス塔頂ノ鑠板ハ其上面積ハ四千四百方時下部面積一万四千八百方時、塔ノ基底ノ鋼ガ受クル最大壓ハ方時ニ付二万七千五百封度トス此ハ垂直ナル荷重ノ外塔ノ彎曲ニ起因スル應力ヲモ合算ス、普通ノ荷重ノ狀体ニテハ此最大應力ハ方時ニ付二万封度ナリ四

鐵道線路悉ク其荷重ヲ滿載シ馬車道上ニハ車輪ノ激突ヲ受ケ歩行道ニハ行人ヲ密集セシム  
 ルコトトシ合活重ハ橋ノ長一呎ニ付八噸又普通ノ假定最大活重ハ長一呎ニ付四噸ナリ、吊懸  
 セル通行道ハ四組ノ構桁ヲ塔麓ノ平面高ニ於テ据エ各構桁ハ上下臥材ノ心心二十四呎高ト  
 ス構桁ノ各對ハ心心二十八呎内側構桁ノ内法幅四十呎トス鐵道線路四線ノ内貳線ハ構桁ノ  
 上でつきニテ貳線ハ其下でつきニテ載荷ス二條ノ歩行道ハ各拾呎ニシテ床梁ノ懸出部ニ則  
 チ外側構桁ノ外側ニ設ク車道用ノ中央道幅ハ三十五呎ニシテ構桁ノ下でつくノ平面高ニ置  
 ク本橋ニ於テ新案トスベキハ横桁ノ上下臥材ニにつける鋼ヲ用キタルコト是ナリ其應力ハ  
 方一時ニ付四万封度ト爲セリにつける鋼鉢ニハ方一時ニ付二万封度ノ應力ヲ採ルにつける  
 鋼ノ價格高キニ係ラズ鋼重ノ節約ニヨリテ全部ヲ普通ノ鋼材ヲ以テ造レルヨリハ實際較々  
 廉ナルヲ得タリ鋪點間上廻リノ鋼重ハ吊鑄ヲ除キ炭素鋼一万五百噸につける鋼八千噸トス  
 鑄ノ重ハ六千五百噸ニシテ橋梁全部ノ鋼重ハ鑄鎮、吊鑄塔及懸架すばんノ分共合セテ四万貳  
 千噸ナリ橋重ノ如斯大ナルト載荷量ノ大ナルトニ係ハラズ竣成ノ曉ニハぶるーくりん橋ヲ  
 シテ有名ナラシメシ外觀ノ壯ト美トヲ具備スルニ到ラン此壯ト美トヲ欠キ此種ノ營造物ト  
 シテ最モ醜ナルハうむりやむするぐ橋ナラン

Scientific American Supplement July 25, 1908.

K.K.

### 機械

○往復動機關トたるびんトノ聯合 (Reciprocating Engines and Turbines, a combination of the two.  
 By C. A. Parsons and R. J. Walker.) 船舶推進用トシテ二種ノ機關ヲ應用スル良法ヲ案出ス